

… 雨でも休まず；第105、106、107回 …

「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：若柳嵐山の森：6月7日(第一土曜日)、参加費300円。
弁当持参。募金で作った案内板を城山に運ぶ、手伝って欲しい。
- ・活動2：小原本陣の森：6月8日(第二日曜日) 参加費300円。
弁当持参、9時15分駅前集合。車分乗で行く。やり残しの集落斜面整理、小原神社～町有林を抜けて小原尾根への開削道つくり等
- ・活動3：若柳嵐山の森：6月15日(第三日曜日) 参加費500円。
弁当は飯だけ持ってくる事、お昼休みに“森の中の音楽会”。
- ・活動3は、危険防止対策／必ず申込必要：TEL&FAX 03-3411-1636
- 臨時：甲州古道復活：6月28日(第四土曜日) 参加費なし
相模湖駅集合、相模湖～藤野古道探索、史料館で進捗状況打合わせ
- ・集合：相模湖駅前9時15分。8時42分、9時02分のJR高尾発に乗るべし。
- ・服装；汚れても良い格好・着替え 着替え 足元が滑らない履物
- ・持参品；軍手、自分の食器、万一の怪我に備えて…保険証写し
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

● 第一回：通常総会／NPO法人緑のダム北相模

●定例活動日の6月15日(第三日曜日)に交流センターで開催します（詳細別紙）

● 森を活す／F C C：森(林産物:木材)と消費者の顔の見える距離・流通

国産材が売れないからと言って森林を放置しておいて良い訳がない。森林の公益性からの環境税・森林保全税などの投入は反対しないが、森林に経済性ある仕組みが必要だ。我々は、森林自体がお金を生み出す仕組み／FCCなる活動で突破口を探している。十分の準備の後、第一回FCC大月セミナー・第二回FCC甲斐東部セミナーを開き、「桂川・相模川流域材」の確保に見通しを付けて、5月8日消費地：相模原市で「第三回／FCC相模原セミナー」を成功裡に収めた。その拡大会を再度、同市で計画している。“北京で蝶々がはばたくとニューヨークでハリケーンが起こる”と言うカオス論もある。「FCCシステム」が、それになれるか。

1998年11月以来、5年6ヶ月、森林活動を継続して来た。その結果、森を創る／FSC認証の森準備班に取り組むまでになった。FSCの主張は、「森林の持続的な維持・管理・保全には、森林自体が経済性（お金を生み出す仕組み）が無ければならない」としている。現在のわが国の森林状況では、極めて難しい課題である。しかし、難しいからと言って逃げる訳には行かない。そんな事にも取り組んで見る事がNPOのNPOたる所以だ。「不可能、無理、無駄」と言う声もあったが、やってみた。やってみたら、何んかなりそうな気配も出て来た。以下、その取組の現況報告。

… 事務局 石村

当会活動の二本の柱／森林活動は、二本の柱で成り立っている。

- 森を創る： F C S / Forest Stewardship Council 森林管理協議会：今は、FSC認証取得準備会を立ち上げるまでなっている / 担当：園田安男
- 森を活す： F C C / Forest Connected with Consumer 森林(生物)と消費者の顔の見える距離流通：森林を持続させるために、森林自体が経済性(お金を生み出す仕組み)を持たねばならない。 / 担当：石村黄仁



* 木材の確保のために水源地区／桂川・相模川流域の森林関係者と打ち合わせを重ね、FSC材確保の見込みを付けた。まだ、問題が残るが、問題の完全解決など有る訳がない。議論を百回するより壁にブチ当たりながらも行動しながら考え、考えながら行動に移す決意と勇気が問題解決の道。

◎：水源の森を守る：第三回：FCC相模原セミナー／5月8日・於：相模原市

「NPO法人緑のダム北相模」主催による相模原市消費者市民会議・共同組合匠の会、流域森林関係者共催による“水源の森を救え＝流域材を使おう”セミナーを開催した。この仕組み造りの三回目の消費地との最初のセミナーは、純国産材で建築に取り組む「共同組合匠の会：小林康男理事長」案内による県内の純国産材建築現場を視察。消費者団体と流域森林関係者に純国産材住宅を見せ・説明した。

午後は、相模原市けやき会館で「流域材住宅を造る＝水源の森を守る」検討会・セミナーを開いた。今日の視察会・セミナーは、相模原市の自然保護団体・消費団体の皆さんに協力を求めた。企画推進・司会／コーディネイターを倉橋満知子さん（相模原市住）にお願いした。

・ FCC 運動：建設現場見学会・検討会 報告：事務局 丸茂喬

・午前中は…「長寿・健康」をテーマに「共同組合匠の会」の手掛ける施工中住宅と完成後3年の住宅を見学。

「匠の会」のこだわりの仕事は、すべて国産材はもちろんのこと無害・快適の紀州材60年モノや、通し柱200年モノを使用した純国産材住宅であった。午後は、倉橋さんの司会で見学会の感想とこの運動の方向性について議事を進めた。

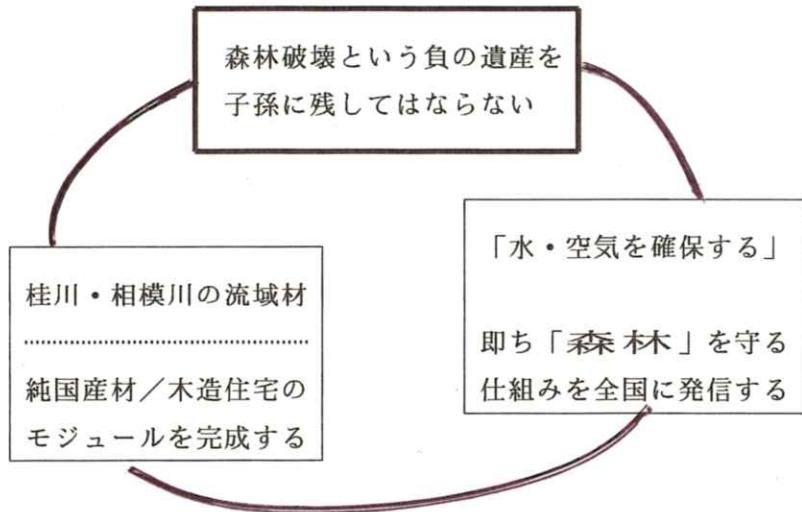
●見学会の感想として…、

純国産材の住宅を直にこの目で見て、しかも坪単価が52万円で可能だということが解り、異口同音に「素晴らしい、これは行ける」という実感を持った。森林生産者側からも消費者側からも“あのような住宅を見る事ができ、今日のような説明を聞けば、必ず普及する”という意見の一一致を見た。山梨県は、FSCの認証を取った。その材は50%が県有林。問題は、民有林をいかに供出させるかのモチベーション(動機)が必要だ。

(説紙)。消費者の立場としては、ベランダでも、内装でも、ともかく流域材を使って見る事が必要(説紙)また、住宅を作りたい人に「山ごと売ります」、そしたら材料を無駄なく使えるし、コストの削減も計れると思う。山主と消費者を森林組合が仲立ちして、そのような売り方を考え、消費者をもっと山に引きつけるようにする(説紙)、などの意見も出た。

●今後の方向性 … 、 FCC運動

のフォーラムを立ち上げたい(説紙)。相模原市で「子供センター」の計画がある。その施設に流域材を使用する働きかけができるかも知れない。次回は、黒川哲郎教授(東京芸大:建築科)の開発した「スケルトンログ工法」の建築見学会・勉強会の機会をつくりたい(説紙)、相模~~市~~で再度6~7月に拡大会を開く事を採択して会を終了した。



改正森林基本法が木材生産から公益性と多様性に軸足が移った事もあって我々、都市住民も従来の登山、トレッキングという形から、森林整備という形を代え幅と広がりが出て来ている。そのような状況下で森林との付き合いは、目標を掲げて重ねた活動は、百回を越し内容も多岐に渡り深みもまして来た。毎月の活動報告は、入り切れない状況になっている。そこで、月次活動報告の詳細は、「森林部会：さがみ湖・森つくりの会」に引き渡して、ニュースレターによる月次森林活動報告は概略に止め、この広報は「NPO法人／活動報告」に移行する事を運営会に提案する。

月次ニュースレターを“読んでるよ～”と言われるのが励みで続けて来たが、法人活動報告となると

内容が面白くなくなり、読んで貰えなくなるのが怖い。怖いからなるべく面白く法人活動を続ける事で、その溝を埋めて行く事にする。困った事や難しい事を面白がって解決して来たが故に…。

H Pによる活動報告は、金児二三男仲間が編集してくれているが、その内容は驚くばかりに充実している。文章も面白く滑らかで写真も豊富、構成も良い。何に増して活動日ごとに直ぐに更新しておりホットなニュースで活動の様子が手に取るように分かる。キメ細かい更新に付いては、これまで外部の沢山の人々からお褒めを頂いている。金児仲間編集の当会の H P は、私の誇りになっている。
内部の者として褒め過ぎの誇りを受けようと甘んじて受けよう。皆んな、「H P／さがみ湖・森つくりの会」を訪問しよう。森林活動に参加できなかった仲間も「H P訪問・投稿」と言う形で参加されよ。

H P… http://www008. upp. so-net. ne. jp/kitasagami/

森 林 活 動 報 告

● 臨時活動報告：恒例：やまなみ祭り：4月29日／強風快晴の緑の日

今年の出し物は、森の香りと
ノコ引き体験、栗田宗久さん（裏
千家師範）によるお茶会。栗田仲間
が、お茶の師範とは、どこから
つづいても想像出来なかつたが、
どうしてどうして堂々たる師範
振りにど肝を抜かれた。

その他、森林仲間の柔軟にして
抜け目のない活動費捻出は、
炭焼きで取れた木酢の即売。更に
蜂蜜採取のためのヒマワリの
種を「貴方のお庭に植えて。蜂
たちが蜜を頂き参ります」と樂
しげに無料配布していた。

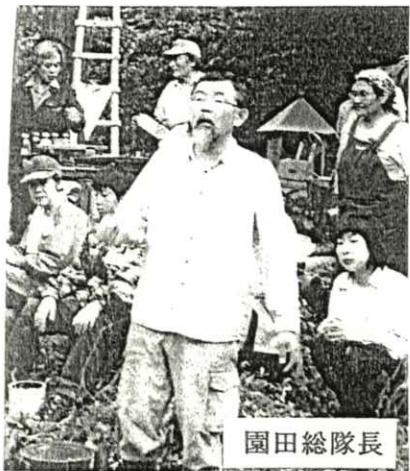
更に更に、帰路のカドヤ会議
でも回りのハイカーに買っても
らって売上金は、募金箱に入り

活動費に回される。カドヤ会議はただ、酒を飲みに来ていないノダ。全て詳細は、H Pを御覧あれ。



○第104回 若柳嵐山の森：／森林班：協力協約B地区に取り組む 5月3日(日) 畑 班：20種以上の苗植え付け。

貴重な連休というのに23名も参加。常連の小5の邦久の姉貴が「弟は森でどんな事をやっているの
だろう」と家では何も話さず熱心に森に行くのが気掛りで偵察に来た。姉貴は、なるほどと思った。
「男は黙って実行あるのみ」か、かっこいいね、邦久君!!。詳細報告：H Pを観かれよ。



5月の植樹祭では、桂・山桜などこの地に適した苗を約1300本ばかり植えた。

6月活動風景

…神奈川県一協働企画…
自然体験教室

…2003/6月15日…

斎藤憲弘さん企画・進行による教室は素晴らしい内容と成果を得た。



県／企画部：木内課長



体験教室オリエンテーリング



斎藤教室長



篠田主任指導員の説明を受ける

大久保沢に「砂防ダム建設」が決定したため活動の見直しが必要になり、入りたい場所の地権者が解らずモタモタしている。この間、観光協会から旧甲州街道の道標つくりの依頼が来た事から成り行きのままに標題プロジェクトが立ち上がった。「瓢箪から駒」と言う感じで、小原町ぐるみのかなり面白い展開になってしまった。以下、齊藤仲間の報告。

5月11日、小仏峠を起点とする相模湖町～藤野町～上野原町～大月市／笛子峠をつなぐ各地から11人が集まった。先ず、本物の古道をみましょう…と、美女谷から本陣に向かう古道と大久保沢から工事中の高速道路にそって民家の背後を通って本陣に至る細道をたどった。午後は、このプロジェクトの第一回活動相談会となった。

- 1、会の名称：「旧甲州街道」・「甲州道中」・「甲州古道」のどれにするか。次回までの宿題。
- 2、次回6月28日(祝日)、会場は、藤野町史料館、お世話役は藤野町の西村繁男さん、9時30分相模湖駅に集合後、旧甲州街道を辿って藤野資料館まで辿る計画。史料館で今後を打ち合わせる。
- 3、各地区ごとに関係者、行政、市民団体などに働きかけ古道探査の結果を地図に落とし込む。地図は各町役場で2500分の1を入手の事。
- 4、対象を「小仏峠～笛子峠」とし全体統括を加藤岑夫さん、事務担当を齊藤憲弘とする。
- 5、活動費用；道標制作などを各町役場・観光協会などから請け負うなど提案（尾形）
- 6、本日参加できなかった小俣喜一さん（上野原町）には加藤さんから報告連絡する。

ご意見・検討事項：

古道とはどれを指すか？。この古道探査プロジェクトで江戸時代の時代ごとのものが明確になると嬉しい（中里）。元々は、塩の道のようなものだったが1716年、徳川家康により（国史辞典）「甲州海道」として開削されそれが、海がないので道中に改められた。街道の名称は、明治になってから。現在の国道20号線を「甲州街道」と名付けた。そこで…、旧甲州街道か甲州道中か甲州古道か、皆さんのご意見募集

- *早速、MLその他の反応有り…。私は、甲州道中を起点：半像門から道を辿って本を書いた事があります。この道は、「軍事道路」の性格が強く甲州道中は、五街道のうち唯一、日本橋でなく半像門だったようです（篠田）。また、甲州街道は、国道20号線の事だから純粋に言えば、ここが旧甲州街道は、おかしい（金児）、「小原宿を考える会」の榎本和雄さんが会報を下さったが「簡にして要」。
- *事務局から… 桂川相模川沿いに走る甲州古道復活も「水源の森蘇生」との絡みで進めて行く。

●第106回 若柳嵐山の森：5月18日 第三日曜日 / 天候：晴れ、参加者70名

初参加者／神奈川県建具協同組合の若手、Tree Houseに取り組んでいる國士館大の他学生他、各地から初参加9名。活動開始に当たって園田森林リーダーからの安全注意。

- 1) 自分の身は自分で守る。その日の体調を知った上で自然と付き合う事。慣れが一番怖い。
 - 2) チェンソーなど危ない機器は、認定者のみに使用許可。活動を始める前に“さあ～、始めるぞ、”と気合いを入れ、気持ちをひき締める事。昼食後、午後の作業では、是非とも必要。
- ・森林整備班；協力協約B地区の作業は、2台のチェンソーを使い、樹間密度の高い密植林の除伐。本格的に講習を受けている積極派の山本女史の参加、今時の女性は、強い。
 - ・藪刈り班：広葉樹の森の上の三角地帯から皆伐跡地に向かう人海戦術の成果は凄い、来春の植林準備。
 - ・ロゴソール、チェンソーの講習会には、川島指導員を迎えて真剣な学習となった。

- ・生態系調査班：篠田指導員による2年目の方針発表／「森しごと」の効果と影響を将来、追跡していくために定点を決めて調査を進める。1)手入れした植林地 2)手入れしない植林地 3)斜面の落葉樹林 4)沢沿いの落葉樹林の比較検討と将来計画の設定。
 - ・お花畠班、遊休農地活用班、養蜂班、木工班……。いろいろ、HPを御覧あれ。
-

●月次運営会：5月16日 第三金曜日 渋谷マルモ出版本社 午後6時30分～

出席／大坪、潮田、吉田、丸茂、鈴木、兼松、谷、辻田、須藤、斎藤（敬称略・順不同）

- 1、森林作業の危険防止対策：参加申込と記録の確実実施、実務講習会実施、装備点検、手引書作成等。
- 2、FSC準備会：園田指導員の活動方針を会として全面的に支持し協力する事を採択。
＊関連事項：森林境界線の確定作業推進：民有地で認証を取る意味を確認。
森林生産物の管理方法の徹底：木材・炭・花・蜂蜜等
遊休農地（畠班管理）の整地・成果管理：もう、オロ引き大根がお昼に提供できる。
- 3、流域通貨リバー：進捗状況と森林仲間の協力要請／吉田
- 4、早稲田商店会～相模湖町の交流事業について：当会の活性化に繋ぐ／丸茂
- 6、活動活性化の新しいツール：ML（メーリングリスト）開設の件／須藤
- 7、NPO活動の公的発刊物を検討
- 8、その他報告／イ、FCCセミナー：丸茂／前述参照／
ロ、甲州古道復活プロジェクト：日刊地方2紙で大きく報道／斎藤：前述参照
ハ、神奈川県協働事業経過と対策：斎藤／森林仲間の協力求む。
ニ、石窯制作とガーデンパーティの提案／須藤

* いずれの重要な案件も白熱の討論。初参加の谷嘉子さん（環境づくりNPOエコ・メッセ代表）との交流も始まった。

- ・後記／ ウーム、読み物として面白くなくなったなあ～、金児さんに城を明け渡した結果は、明らか。
- ・活動は、結構楽しく続けているが自然に向かうには、覚悟が足りないと叱咤を受けたのが、今度の事故。お陰で少しは性根が座ったと思うが、それ以上に森林仲間の凄さを見せつけられた。どうやらこの活動は、一皮むけた活動になりそうな予感がする。

石村

定例活動

- 1) 6月7日(第一土曜日)；若柳嵐山の森
9時30分現地、参加費300円
弁当持参
- 2) 6月8日(第二土曜日)；小原本陣の森
9時15分 相模湖駅前、車分乗で
行く。参加費300円、弁当持参
- 3) 6月15日(第三土曜日)；若柳嵐山の森
9時30分現地、参加費500円
必ず連絡。弁当不要、早め終了し
*同日、活動後、第一回通常総会

モットー／急がず。休まず、楽しく、無理せず、ボチボチと
そして、沢山の参加・ご意見下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会（NPO法人縁のダム北相模／森林部会）
事務局／154-0023 世田谷区若林3-35-9
TEL & FAX 03-3411-1636
お世話係 石村 黄仁／自然科学研究所内
H P；http://WWW008.upp.so-ne.jp/kitasagami

臨時活動 6月28日(第四土曜日) 甲州古道復活プロジェクト
9時15分 相模湖駅 相模湖町～藤野町
1)古道探査 2)活動方針打合わせ／於：史料館

- ご支援の団体；国土緑化推進機構、7-11緑の基金、損保ジャパン環境財団